

第10講 【 蔵象Ⅲ 】 教科書 P.43・44

『 肺 』

[別称] 相傳の官『 素問 』; 気の本

[位置] 背の第3椎に付く

[特徴] 寒熱に対する抵抗力が低く、燥をもっとも恐れる

「嬌臓」: 虚弱で病になりやすい臓

原因 { ① 外界と直接通じていて各種の邪気が侵入しやすいため。
 ② 体表・皮毛を主っており、外邪はまず肺を犯すため。
 ③ 肺の質は柔らかくてもろく、破損しやすいため。

「華蓋」: 肺は清潔で臓腑中もっとも上部に位置している臓である。

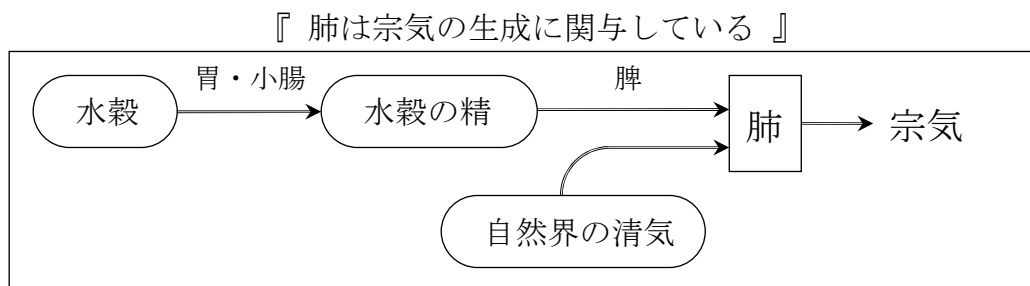
「貯痰の器」: 体内で痰飲が発生すると、肺に集まり溜まり易いため。

[生理機能]

: 肺には“気を主る”“宣発肅降”“通調水道を主る”“百脈を朝す”等の働きがあるが、なかでも重要なのは“宣発肅降”で“気を主る”や“通調水道を主る”機能は“宣発肅降”作用の表現の一部であると考えられる。

1. 気を主る（主気） { 気を主る（主気）
 呼吸を司る（司呼吸）

: 肺は全身の気の生成・運行及び呼吸を主っている。



* 気の運行及び呼吸については“宣発肅降”で説明する

2. 宣発・肅降（を主る）

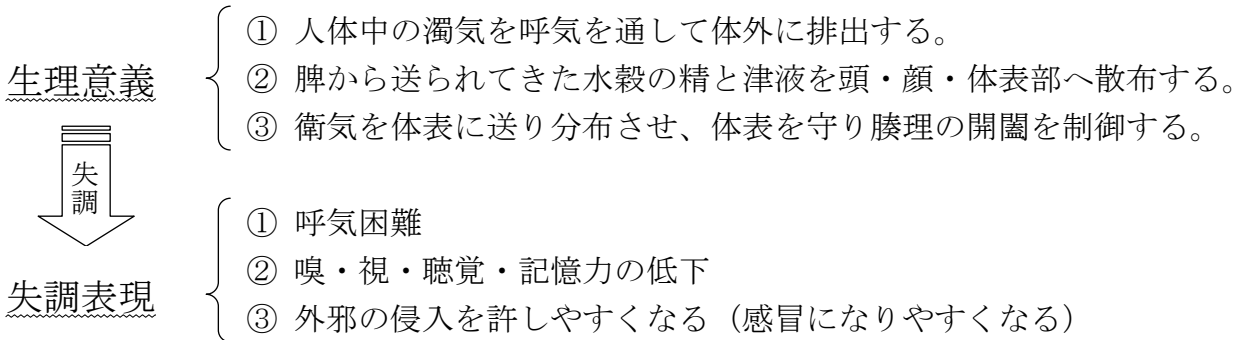
* 省略して“宣降”と呼ぶこともある。

: 肺が持つ気の運動（気機）『 昇・降・出・入 』を主る働きである。

1) 宣発（を主る）

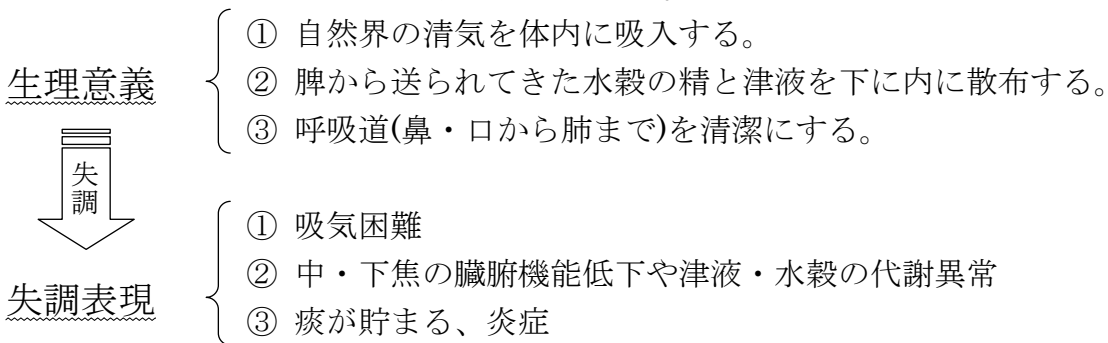
* 宣散と呼ぶこともある。

: 気の上へ外へ向かう運動（昇・出）を主る。

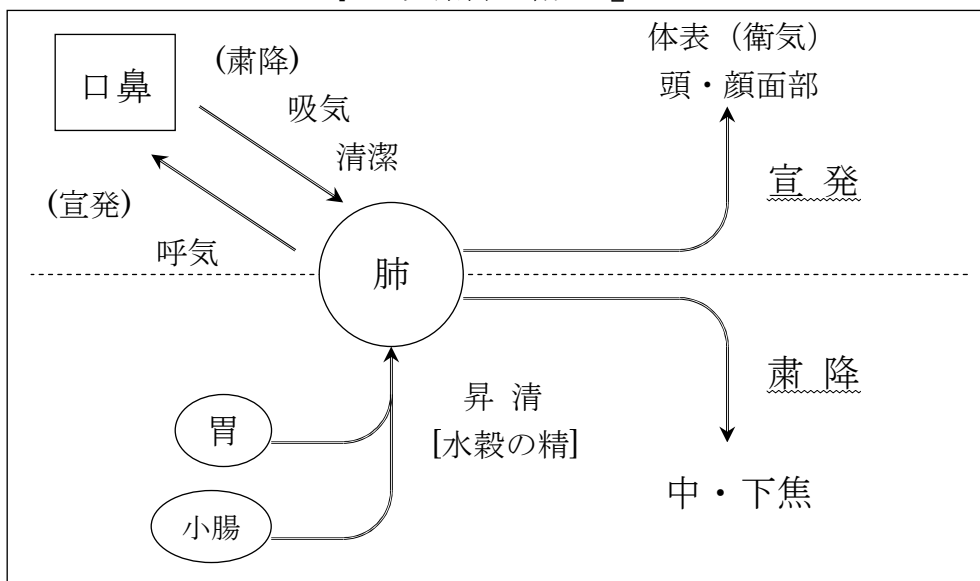


2) 肅降（を主る）

: 気の下へ内へ向かう運動（降・入）を主る。



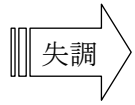
『 宣発肅降の働き 』



* 宣発肅降の失調は“全身の気(血・津液等)の運行失調”につながる。

3. 通調水道（を主る）

：肺は水道を疏通し、津液代謝を調節して平衡を維持している。



津液代謝失調：[汗・尿・大便・体表] 等の異常

4. 百脈を朝す

：百脈（人体中の血脈）は肺に集まり、宗気によって心の推动作用を助けている。

[系統]

主	華	官	液	神	志
皮毛	毛	鼻	涕	魄（・気）	憂（・悲）

【練習問題】

問 1. 肺の生理作用はどれか。

1. 疏 泄
2. 統 血
3. 宣 発
4. 納 気

問 2. 嬌臓と呼ばれる臓腑はどれか。

1. 肝
2. 心
3. 肺
4. 腎

問 3. 五行色体でみた肺・大腸の症状はどれか。

1. 皮膚が色白で、弱い声で話す。
2. 目が青みがかって、手足の腱が痛む。
3. 顔がほてりのぼせて赤く、脈動が強い。
4. 顔や皮膚が黄ばみ、唇が荒れやすい。

問 4. 肺について誤った説明はどれか。

1. 「華蓋」と呼ばれる
2. 背の第3椎に付く
3. 「生痰の源」と呼ばれる
4. 百脈を朝す